

「発達障害のある子の理解と対応」



筑紫女学園大学人間科学部
教授

酒井 均 (さかい ひとし)

1981年3月 愛知教育大学特殊教育科肢体不自由児教育課程卒業
社会福祉法人「しいのみ学園」指導員を経て
1989年3月 九州大学大学院文学研究科心理学専攻博士課程修了
1989年4月 筑紫女学園短期大学幼児教育科就任
筑紫女学園大学文学部人間福祉学科
発達臨床心理学科を経て
現在 筑紫女学園大学人間科学部人間科学科教授
筑紫女学園大学大学院教授（兼任）
筑紫女学園大学人間文化研究所所長

障害児援助、障害児保育
発達障害児のアセスメントと支援、家族支援

福岡市児童相談所非常勤心理判定員（平成14年まで）
福岡教育大学特別支援教育センター学外研究員
福岡県教育センター、春日市療育施設くれよんクラブなどで相談
にあたる

特別支援教育士スーパーバイザー（No.02-77）
福岡LD親の会アドバイザー
北九州LD親の会アドバイザー
特別支援教育士の会福岡支部会長
日本LD学会評議員

ADHDやLDやアスペルガー障害などの発達障害を持っている子ども達は、一見普通の子どもの何ら変わらないようにみえます。しかし、その子ども達は、脳内にうまくいかない部分があるがゆえに独自の認知・行動特性を持っています。そのため、対応を間違えるとひどいパニックを起こしたり、突発的に手が出てしまうなどの危険な行動をしてしまいます。平成24年12月に文部科学省から発表された調査結果では、このような子ども達が子ども全体に対して6.5%いるのです。これは決して少ない数ではありません。

この子ども達にとって、歯科医院は未知の領域で、そこで行われることは恐怖の対象でしかありません。そこで対応を間違えてしまうことは、子どもにとってもそうですが対応する歯科医にとっても不幸なことです。

ここでは、ADHDやアスペルガー障害などの発達障害の子ども達はどのような特徴を持っているのか、どのような行動をしがちなのかなどを解説し、それに基づく対応をどのようにしたら良いのかを説明していきたいと思います。